

2024 年北九州港の貿易概況

区分	全国	九州経済圏	福岡県	北九州港	全国に占める構成比
輸出総額	107 兆 879 億円(+6.2%)	12 兆 4,307 億円(+7.1%)	7 兆 9,906 億円(+6.2%)	1 兆 5,612 億円(▲1.0%)	1.46%
輸入総額	112 兆 5,591 億円(+2.0%)	10 兆 6,816 億円(▲3.9%)	4 兆 2,113 億円(+2.5%)	1 兆 6,626 億円(▲1.4%)	1.48%
輸出入総額	219 兆 6,471 億円(+4.0%)	23 兆 1,123 億円(+1.7%)	12 兆 2,019 億円(+4.9%)	3 兆 2,238 億円(▲1.2%)	1.47%

2024 年の北九州港（北九州空港含む、以下同じ。）の貿易実績は、輸出総額が前年比 1.0%減の 1 兆 5,612 億円、輸入総額が同 1.4%減の 1 兆 6,626 億円、輸出入総額が同 1.2%減の 3 兆 2,238 億円となり、いずれも 2 年連続で減少した。貿易収支は 1,014 億円の赤字となり、3 年連続で輸入総額が輸出総額を上回った。

輸出に関して、輸出額上位 5 品目は鉄鋼、一般機械、ゴムタイヤ及びチューブ、電気機器、非鉄金属であり、これらの合計は 1 兆 979 億円と全体の 70.3%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 2.9%減の 3,691 億円で、24 年連続の第 1 位となった。第 2 位はアメリカ合衆国で同 32.9%増、第 3 位は大韓民国で同 3.9%増、第 4 位は台湾で同 12.8%減、第 5 位はインドで同 2.0%増となった。地域別にみると、東アジア主要地域（中華人民共和国、大韓民国、台湾、香港、ASEAN10 カ国（ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー）への輸出額 8,745 億円が全体の 56.0%（前年比 1.3%ポイント減）を占めている。

韓国での OLED 投資の開始による FPD 製造装置の輸出増加や前年を上回る円安基調を背景に、電気機器や輸送用機器などで輸出額が増加した。一方、主要な輸出相手国である中華人民共和国、台湾などへの一般機械の輸出額などが伸び悩み、輸出総額は前年比でマイナスとなった。

輸入に関して、輸入額上位 5 品目は電気機器、一般機械、輸送用機器、天然ガス及び製造ガス、非鉄金属であり、これらの合計は 8,234 億円と全体の 49.5%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 2.8%減の 5,943 億円で 31 年連続第 1 位となった。第 2 位はオーストラリアで前年比 31.3%減、第 3 位はタイで前年比 12.1%増、第 4 位は大韓民国で前年比 3.8%増、第 5 位はマレーシアで前年比 3.7%減となった。地域別にみると、東アジア主要地域からの輸入額 1 兆 832 億円が全体の 65.2%（前年比 0.2%ポイント上昇）を占めている。

九州における半導体関連設備投資の増加を背景に、一例では、オランダからの輸入額が前年比 365.2%増になるなど、一般機械の輸入額が前年比 32.9%増と大幅に増えたほか、非鉄金属、非鉄卑金属くずなどでも、前年比 20%以上の大幅な増加が見られた。一方で、石炭、無機化合物は、国際価格の下落を受け、前年比 40%以上減となった。

北九州港の最大貿易相手国は、24 年連続で輸出・輸入ともに中華人民共和国であった。輸出入総額は全体の 29.9%と前年比 0.5%ポイント減、3 年連続の低下となった。中国では不動産不況や消費の伸び悩みが続いており、輸出額の減少が続いている。また、同国からの輸入額についても、全体で前年比 2.8%減少しており、特に無機化合物で前年比 45.1%減と大きな減少が見られる。輸出入総額では前年比 2.8%(280 億円)減となった。

一方、対アメリカ合衆国の貿易額は前年比 11.7%増と増加している。輸入額は前年比 19.1%と減少している一方、輸出額が 32.9%と大きく伸びている。品目別では電気機器、一般機械の輸出増加が大きく、背景には堅調な労働市場やコロナ禍中の家計貯蓄の残存による経済の伸びが挙げられる。

なお、前年比で輸入額が大幅に減少した国は、この他にも石炭の主要な輸入相手国であるオーストラリアやロシアが該当する。

図－1 北九州港の貿易額の推移

